

電化実験住宅完成によせて



中部電力株式会社
常務取締役 齋藤 敏夫

このほど当社の総合技術研究所の一角に電化実験住宅が完成した。計画段階から大きな関心をよせていたが、たまたま完成直前に調布市にある東電の「ラベルビー21」展示会場の「オール電化住宅」エレクトピアを見学したこともあって、一層の期待をもって待っていたところであった。エレクトピアの方は「21世紀に向けて“やさしさと思いやり”をテーマに理想的な住まいを提案します」の主旨で展示PRされているのに対して、当社の電化実験住宅は「より便利で、より快適で、より楽しく。住宅において電気利用の極限を追求します」の主旨で、当社の開発した電化製品の実際の居住環境においての試験と改良、更に市販家庭用機器の利用試験を通してお客様への情報提供を主眼としたものになっている。多少のねらいの差はあっても21世紀に向って電気の商品としての特質を基盤とした快適な生活への追求と提供を通して電化住宅普及への挑戦であることには変りないところであろう。

全電化住宅普及への努力は当社にとって今始まったことではなく昭和40年代前半の温水器販売の最盛期に給湯に加えて厨房も電気ということで当社堀田アパートの1棟が電化棟として造られた。

今日、時代もエネルギー市場の事情も大きく変化した中で内容も質も格段にグレードアップした姿で全電化住宅普及が再び私共のターゲットとして浮上してきた。これは人々の価値観の多様化、個性化、ファッション化、情報化が進みアメニティ利用への社会的ニーズに利便性、安全性、クリーン性等の特質をもつ電気エネルギーの果す役割が大きいという事実の認識である。もう一つは急速に進展しつつある産業構造の転換により将来はいわゆる民生用としての第三次産業用電力と住宅用電力の伸びに依存せざるをえない事情によるものである。

しかしながらこの貴重な市場は他面厳しい競争の分野でもある。座して顧客を待つ式の供給時代

は既に遠い昔になったとはいえ今新たに電気を製造販売するメーカーとしてお客様に電気を買って頂く時代に入っていることを心に刻みこむ必要がある。そしてこれからが電気事業として真に生存と新たな成長のための努力が求められる時代が到来したということ

ができる。

需要の伸張は何れの企業にとってもその命運を左右するものでありエネルギー競争時代に突入した電力会社にとっては従前以上の重大な意味合いをもつものである。新たな発想による需要開発と販売戦略の構築が要求される所以でもある。私達が今懸命に努力している電気温水器の普及もやがて来る全電化住宅時代の一里塚と認識し、今後の販売戦略を構築しなければならない。そのための基礎的条件は一つに電気エネルギーの特性を評価し利用され得るニーズの発掘と供給側のコストにマッチした機器、システムの開発であり、一つに潜在需要を顕在化し市場競争力をもつための低廉な電気料金への努力と利用を容易にするメニュー（電気料金制度）をそろえることであろう。

次にこれらを総合した販売戦略の構築展開ということになるが何れも息の長い道程であることから何よりまして留意しなければならないのは方針の一貫性である。不変の販売方針こそ需要家の信頼を勝ちうる道であろう。

何れにしても需要面からみて電気エネルギーは機器という媒体なくしては価値のない商品でありここに利用機器開発の意味があり、さらに負荷平準化、深夜電力利用といった供給側条件にマッチした分野での機器・システム開発が電力会社の積極的に取り組む課題であろう。住宅電化部門はもちろん今後地域熱供給、地場産業への熱エネルギーとしての利用技術の開発等々、お客様への豊かな生活、産業発展への貢献と当社販売面での画期的需要造成となる機器の開発成果を目指して大いなるチャレンジをされることを期待して欄筆する。



表紙写真説明

実験を開始した電化実験住宅

快適な電化生活を追求するため、深夜電力を利用した空調システム、厨房・浴室・トイレなどの家庭電化機器の開発・改良および実証試験を4月から開始した。

本文2頁